

終了時

## 授業時間を厳守する

音楽の時間に、世界の民謡を鑑賞した。

Z教諭：「では、自分の一番好きだと思った曲名と、その曲についてどんな感想をもったか、言ってもらいましょう。」

…（終わりのチャイムが鳴る）…

Z教諭：「時間がなくなっちゃったけど、Aさん、どうですか？」

Aさん：「えーと、…ロシア民謡のボルガの舟歌です。」

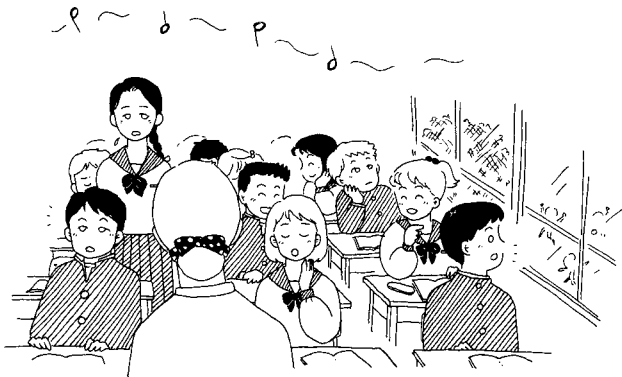
Z教諭：「ボルガの舟歌を聴いて、どんな感じがしたの？」

Aさん：「えーと、…力強くて…心の底に響くような…。」

Z教諭はまだ授業を続けていますが、生徒たちはなんとなく落ちつきません。窓の外を眺めている生徒がいます。後ろの方から、私語も聞こえてきます。教材を片付け始めた生徒も出てきました。

ついにBさんが大きな声で、Z教諭に言葉をかけました。

Bさん：「先生、この休み時間に担任の先生に呼ばれているので、もう行ってもいいですか。」



終鈴後も「もう少しで、きりがつく。」との教師の思いで、授業を続行することがあります。しかし、事例のようにチャイムが鳴ったとたんの子供の緊張感が弱まり、かえって指導効果が薄れる場合が多いのです。

### 終鈴を守る

子供にとって、休み時間は緊張から解放される貴重な時間です。

この時間に気分をリフレッシュさせて、次の授業に向けての準備をする子供は多いでしょう。あわててトイレに駆け込む子供もいるかもしれませんが。ほんの少しでも体を動かして遊びたい子や、他のクラスの友人と休み時間に会うことを約束していた子、職員室に用事のある子供など、子供にもそれぞれ事情があります。子供の立場で考えて、授業時間は厳守したいものです。

### 時間を守る大切さを教える

指導計画通りに授業が進まないとき、授業のきりが悪いとき、子供の興味・関心がまだ持続しているときなどは、ついそのまま授業を継続させたいと思ってしまう。しかし、チャイム着席を慣行するなど日常から子供に時間を守るように指導しているのですから、教師も授業時間を守りたいものです。始鈴や終鈴を守るということは、時間の大切さを子供たちに教えることにもつながります。子供たちと一緒に始鈴とともに授業を始め、終鈴とともに授業を終える。教師が授業時間を守ることで、教師が授業を大切にしているという思いが子供に伝わり、子供のやる気を喚起します。それが、授業の充実につながっていきます。